

幼児教育長期派遣通信 2学期号

発行 令和 5 年 1 月 31 日

福山市立光小学校 中崎 寛子（派遣園・所：福山市立新涯幼稚園）

本年度、「幼児教育長期派遣研修」として、福山市立新涯幼稚園で研修をしています。研修を通して、1学期は、子供は遊び込む中で、「5つの力」や「3つの資質能力」を総合的に育み、発揮させ、「学びの芽」を体得していることを理解しました。その「学び」を実現するためには、教師の援助や、子供が安心できる環境構成が大切だと分かりました。2学期号では、幼児教育の「学びの芽」を、小学校の「自覚的な学び」にどのようにつなげていくかについて、より深く考えていきたいと思えます。



焼き芋パーティー

1 2学期の研修内容

(1) 園内研修

- ・園児観察，教師による環境構成や援助の見取り ・園内環境の整備と安全点検
- ・行事に参加（誕生会，運動参観日，小学校と合同の避難訓練，サツマイモ・クワイの収穫，焼き芋パーティー，すくすくデー【小学校栄養教諭による食育指導】，英語で遊ぼう【小学校 ALT による英語活動】，発表参観日，交通安全教室，お楽しみ会）

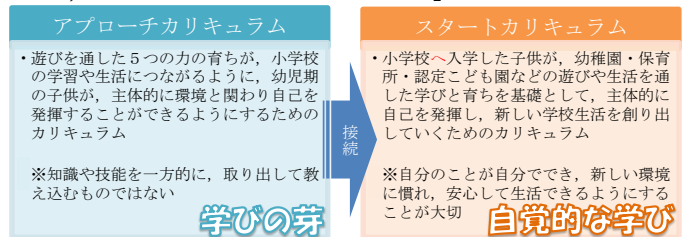
(2) 園外研修

- ・幼児教育理解に係る研修会 ・所属校の全学年による授業参観 ・入学してくる幼児の園・所参観
- ・長期派遣研修報告会 ・接続に係る研修会 ・所属校の幼保小連携接続協議会への参加

「学びの芽」を「自覚的な学び」につなげる

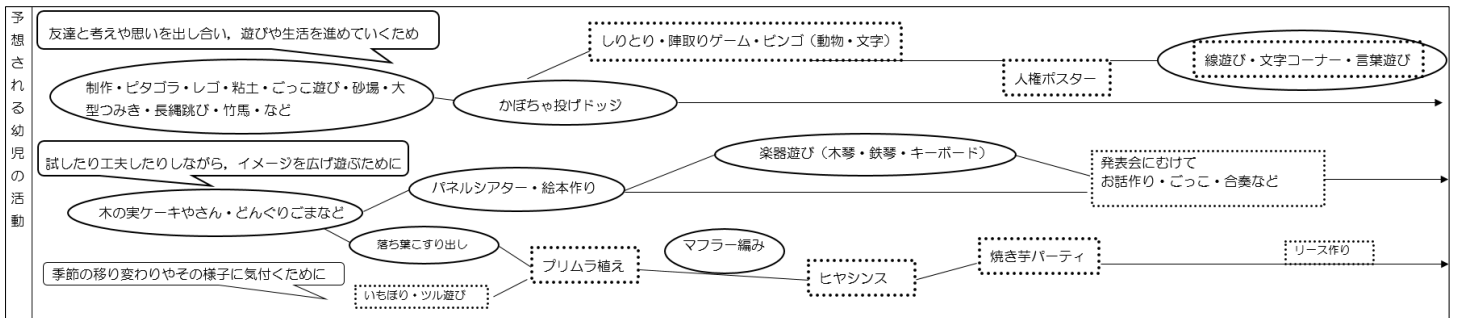
2 研修を通して

「学びの芽」を「自覚的な学び」につなげていくためには、「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」のなめらかな接続が必要です。主に年長児と小学校1年生の2年間の「架け橋期」のつながりについて、捉えなおし、改善を図っていくポイントとして、3つ紹介します。



① 子供の姿・思いをつなげる

福山市立新涯幼稚園では、毎月の予想される幼児の活動を「保育ウェブ」で表しています。幼児の実際の姿から、環境との関わりの中でどのように子供が変容していくのか・教師の意図などを、下のように図にまとめています。（5歳児 11月の月案より）



活動が進むにつれて、さらに子供の経験したことが書き加えられていきます。例えば、発表会までの考え方としては、「行事ありき」ではなく、子供の色々な経験の延長線上に行事があると考え、子供の活動の流れの中に、行事を位置付けています。

小学校では、幼児期に遊びの中で総合的に学んできた経験を活かせるカリキュラムの編成が必要です。小学校での教科カリキュラムを編成していく時のポイントとして、1つの資質・能力を取り出すのではなく、生活科を軸とし、複数の教科を横断的・合科的に構成させ、学校や日常の生活、周りの環境（人・もの・こと・とき等）を含めた「総合的な単元」として構成していくことが大切だと考えます。

② 子供(幼児期と児童期)(児童と児童)をつなげる

新涯幼稚園の子供が、小学校について書かれた絵本を見ながら、小学校入学に対する思いをつぶやいていたので紹介します。



小学校に、行くの楽しみ。

書けない文字も書けるようになるから。カタカナも英語も。

小学校行きたくないなあ。勉強おぼえてないもん。

学校って虫が好き。な子多いのかな。

2+5も分かんない。7? 23+7は、30?

数字を書くのがむずかしいんよ。

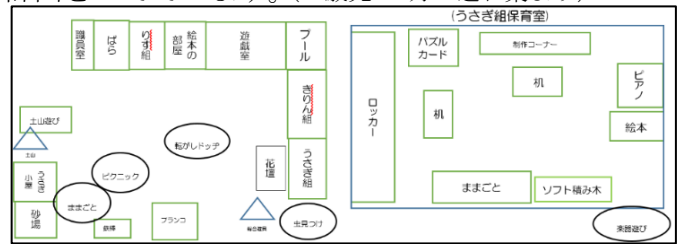
虫とたたかい、するんじゃない?

この他にも、「買ってもらったランドセルでの登校が待ち遠しい」「同じ幼稚園から進学する子がないから、友だちができるかドキドキする」「幼稚園のように遊び場・遊び道具がないから遊べない」等、個々に多様な思いを持っています。そうした幼児期の子供の思いを**実態把握**していき、スタートカリキュラムを児童の思いに沿ったものへと改善を図り、「学びが楽しい、面白い」「学校に行きたい」と小学校生活が安心感を持ってスタートできるようにしていきたいです。

また、児童と児童をつなぎ、安心感のある学級経営をするためには、**環境を構成**することが必要です。新涯幼稚園では、週日案に環境構成についての計画を立てています。(4歳児11月の週日案より)

子供の周りにどのような環境を用意するのか、そこからどのような活動が生まれるのかを教師が考え、子供の身の回りの環境すべてを、遊びに生かせるようにしています。

小学校においても、学校生活における身の回りの環境は、教材のひとつです。子供の生活の中から学びが生まれるよう、子供の身の周りの環境構成を工夫していきたいです。



乳幼児期の教育・保育をつなぐことで、幼児の時の経験や幼児期に身に付けた非認知能力(気付き力・やりぬく力・人間関係調整力など)等が小学校で活かすことができるようになりますと考えます。

小学校入学を「0スタート」にせず、「幼児期までに育ってほしい10の姿」を踏まえ、子供たちの主体性を大切にしたい教育を行うことが必要です。



参考:「保育の学校3」無藤隆 フレーベル館 2011年

③ 大人(保育者と教師)(教師と保護者)をつなげる

新涯幼稚園の年長児の保護者の皆さんに、小学校入学に際しての思いを調査しました。



不安なこと

同じ幼稚園からの友達がいないので、新しい友達ができるのか、生活に慣れるまで、精神的にしんどくならないのが心配。

気持ち 友だち

楽しく行ってくれるかどうか。

新しい友達を、自分からつくることができるのか。

勉強

勉強についていけないのか…不安。

担任の先生はどんな先生なのか。

先生

時間割のように決まっている1日の流れについていけないのか。

集団生活での行動ができて、先生の指示を聞けるのか。

生活

願い・望み・期待

集団の一員として

楽しさ

毎日楽しく登校してほしい。

いろんな子と過ごして、集団での役割を理解できるようになってほしい。

元気

毎日元気に通ってほしい。

新しいお友達をたくさんつくってほしい。

友だち

大きなけがもなく、お友達と楽しくすごしてもらいたい。

友達と仲良く、勉強で集中力をつけてほしい。

身に付く力

何事にもチャレンジしてほしい。色々体験して、考える力をつけてほしい。

保護者の思いの中で「勉強」「友だち」「楽しく」という言葉が多くでてきました。小学校=勉強だという思いから、勉強に対しての不安感が強くあるのだと分かりました。小学校生活が「毎日楽しい」と思えるように、保護者の思いを把握し、保護者と教師がつながることが大切です。

また、**保育者と教師**のつながりとして、校内・外の組織作りを行い、継続できる組織にしていくことも必要です。保育者と教師が、顔を見て、気軽に話ができる関係をつくっていききたいです。

3 まとめ

2学期号では、「学びの芽」を「自覚的な学び」につなげるために、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムのなめらかな接続に向けて考えました。3学期号では、4月から始まる所属校においての1年生のスタートカリキュラムを具体的に考えていきたいと思ひます。

〈乳幼児教育支援センターより〉

円滑な連携・接続を進めていくためには、園・所等と小学校の相互理解が欠かせません。幼児教育の質の意義や価値等について、小学校関係者に加え、家庭をはじめとする幅広い関係者と認識を共有することが大切です。「子供の育ち」を中心に据えた対話を進めていきましょう。